

研究主題 「自他の大切さを認め、主体的に考え行動し、社会の一員としてよりよく生きようとする児童の育成」
～「考え、議論する道徳」の授業実践を通して～

寄居町立男衾小学校

1 研究主題の設定理由

寄居町では、「道徳のまち 寄居」を目指し、心のつながりを大切にする道徳教育を、学校・家庭・地域が一体となり推進している。本校でも、昨年度以前より道徳教育の取組として、ローテーション授業の実施、校長や地域の方などのゲストティーチャーによる授業や説話の実施、児童と保護者の行動目標の設定や紹介・掲示、道徳だよりの発行などを行い、家庭や地域を巻き込んだ道徳教育を進めてきた。

道徳教育は学習指導要領において「特別の教科 道徳」として新たに位置づけられ、これまでの道徳から「考え、議論する」道徳科への転換が求められている。しかし、「考え、議論する」道徳科の効果的な指導法の工夫や周知、他の教育活動や家庭・地域とのより一層の連携に関しては、まだ課題が見られる。以上のような本校の道徳教育や児童の実態を踏まえ、研究主題を設定した。

2 研究の仮説

- (1) 授業の中で、問題意識や興味・関心をもたせる導入や活発な対話を促す発問を工夫すれば、道徳的な課題を児童が自分自身のこととして捉え、主体的に考える力が育まれるだろう。
- (2) 道徳の授業を要として、他の教育活動との関連や家庭・地域との連携を深め、事前・事後指導の工夫をすれば、よりよく生きようとする児童が育成されるだろう。

3 研究の経過

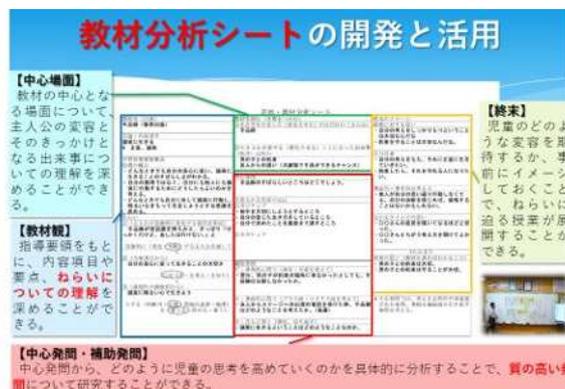
| 時 期 | 内 容 |
|------|---|
| 4 月 | 研究組織、各部部長及び授業者の決定 |
| 5 月 | 学習指導案の形式、教材分析シート、掲示物等についての共通理解 |
| 6 月 | 第1回校内授業研究会（3年） |
| 7 月 | 道徳アンケートの実施・分析 プレ授業・学習指導案検討（4年） 第2回校内授業研究会（4年） |
| 9 月 | プレ授業・学習指導案検討（1・5年） |
| 10 月 | 第3回校内授業研究会（1・5年） |
| 11 月 | プレ授業・学習指導案検討（2・6年） 研究紀要の作成 研究のまとめ（各部ごとの成果と課題の確認） |
| 12 月 | 中間発表会（2・6年公開授業） |

4 研究の内容

(1) 「考え、議論する」授業部会の取組

① 学習指導案形式の検討、教材分析シートの活用

- ・「ねらい」の明確化や、「他の教育活動との連携」について具体的に記述することを確認した。
- ・教材分析シートを活用し、ねらいについての理解を深め、児童にどのような変容を期待するかイメージを明確化できるようにした。



② ローテーション授業、T T授業

- ・ローテーション授業は、担外の教員も学年に入り、担任と題材を分担し、授業にあたった。教材研究が深まる、児童の様子や展開等について、教員間で情報交換する場が増える、といった前向きな効果が見られている。
- ・T T授業実践では、発言を板書する役割と発言への切り返しを担当する役割の分担、役割演技や終末の説話等の分担、個別指導等児童への配慮も考え、取り組んだ。

③ ICTや思考ツール活用の研究

- ・ICTを活用し、デジタル教科書の範読、アンケート結果の提示、アプリケーションソフト「Skymenu」のポジショニング機能の活用を実践した。個人の考えや意見の変容を視覚的に捉えることができた。



- ・児童が考え、議論するきっかけとなる思考ツールを研究した。具体物を使ったり、矢印で高まりや関係性を表現したり、天秤で思考を視覚化したりした。

(2) 「心豊か」調査部会の取組

① 児童アンケートの内容検討・実施・検証

- ・アンケートは、①道徳授業に関すること、②学び合いの時間「なかまタイム」に関すること、③目指す児童像をもとに関連する内容項目を抽出したもの、3つで構成した。
- ・情緒的側面、行動的側面から内容を考えたり、発達段階に

児童アンケートの表。学年別の調査項目が示されています。

| 学年 | 1学年 | 2学年 | 3学年 |
|----|----------|--------|----------|
| 1 | 1-2-3-4 | | |
| 2 | 5-6-7 | 8-9-10 | 11-12-13 |
| 3 | 14-15 | 16-17 | 18-19 |
| 4 | 20-21-22 | 23 | |

目指す児童像をもとに、内容項目を抽出。

応じて文言を変えたりするなど検討を重ねた。実施結果より、自己肯定感の部分で最も課題があることがわかった。

② 道徳コーナーの充実

- ・学級の掲示物として、～咲かせよう心の花～を作成し掲示した。内容項目や児童の振り返りが書かれたハート型の紙を、授業が終わるごとに貼り、学びを振り返ったり、友達と考え方の比較ができたりするようにした。



③ 道徳だよりの発行

- ・月1回程度、保護者向けの道徳だよりを発行している。道徳の授業に関するだけでなく、保護者から見た家庭における児童の行動の様子や、道徳だよりの感想なども掲載し、学校と家庭での双方向のやり取りを行うことができた。今年度は道徳だよりを地域にも回覧し、学校の道徳教育の取組を知らせた。



- ・2学期の授業参観では全学級一斉に道徳授業を公開している。「彩の国の道徳」の教材を取り上げ、保護者に授業に参加してもらったり、授業の感想や家庭で話し合ったこと等をアンケートで書いてもらったりした。また、その内容も道徳だよりに掲載している。

(3) 様々な授業実践

① 校内授業研究会

外部から指導者の先生をお招きし、3回の校内授業研究会を実施した。授業研究会に向け、学年・ブロックでの学習指導案検討を重ね、ねらい、児童の実態、教材の内容などをもとに、授業全体の展開について考えた。児童に問題意識をもたせたり、多面的・多角的に考えさせたり、自己を見つめさせたりするための効果的な指導法について、児童の気持ちを具体的に予想しながら、検討を進めた。その学習指導案をもとに行ったプレ授業や研究協議会を通じて、よりよいものへと改善し、研究授業での指導に活かせるようにした。



② 道徳一人一授業

授業展開を熟慮したうえで、一人一授業の研究授業を公開した。放課後には研究協議会を行い、授業内容について話し合ったり、校長からの指導を受けたりし、自身の道徳教育の実践を振り返り、すぐに役立てることができる取組となった。



5 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・教材分析シートを活用することにより、授業のねらいが明確になったり、ねらいにせまる授業展開を考えやすくなったりして、「考え、議論する道徳」の授業づくりに対する意識を高めることができた。
- ・ICTや思考ツールの活用法について研究を深めたことにより、児童が主体的、多面的・多角的に考えたり議論を深めたりするきっかけとなった。
- ・道徳コーナーを充実させることにより、今までの自分を振り返り、道徳的課題に対する自分の考えや思いを書ける児童が増えた。
- ・日々の教育活動において、「規律ある態度」とも関連させた指導を重ねたことにより、あいさつや返事、清掃活動、くつそろえ等進んで実践できる児童の姿が多く見られた。
- ・ローテーション授業やTTを生かした授業、ゲストティーチャーの活用により、全教職員が協力して指導ができる体制をつくることができた。

(2) 課題

- ・道徳的行為の実践につなげられるよう、今年度見直した年間指導計画や別葉をもとに、道徳の授業を要として全教育活動とより関連付け、道徳教育を意識して取り組む。
- ・より一層児童が考えを深め、議論を活発にすることができるよう、事前・事後指導と関連付けた体験的な学習の充実、導入や議論を促す発問、終末の指導方法の研究・確立を進める。
- ・アンケート結果をさらに詳細に分析し、児童の実態を踏まえ、教師がより明確な意図をもったうえでの授業改善につなげる。